

地域で支え合う 介護保険サミットを前に



連携して脳卒中患者を支援した事例を話し合う「三方よし研究会」の9月中旬の会合。福祉や医療の関係者、行政職員など約150人が集まった（東近江市五個荘清水鼻町・神崎中央病院）

くも膜下出血で救急搬送された。手術した主治医は「各病
れた60歳代の女性が、急性期、院を通じた長期的なりハビリ
回復期、維持期の各病院で治 のおかげ」と笑顔を見せた。
療を受け、症状が改善してい 東近江市など2市2町の地
く状況がスライドで紹介され 域で職種を超えた連携を目指

① 地域包括ケア 充実へ意識共有が鍵

「三方よし研究会」が毎月 鳥輝勇さん(67)は課題も感
1回開く会合。医師、看護師、 じる。「関わる医師はまだ地
理学療法士、ケアマネジャー 域の3分の1ほど。理解が進
などに加え、市民や行政職員、 んでおらず、意識を共有する
消防士らが集まった。同会は 必要がある」と話す。

治療状況などを記した手帳を 東近江市愛東地域では複合
脳卒中患者に持つてもらい、 施設「あいとう福祉モール」
各種病院や施設で一貫した治 が来春に完成する。高齢者の
療を受けられる取り組みを進 生きがいつくりや介護事業、
めている。会合では事例報告 障害者就労支援事業などを1
を行い、参加者が今後の課題 力所で連携しながら運営す
や支援策を考えた。 る。運営委員会代表の太田清

研究会の狙いは医療や福祉 蔵さん(51)は「高齢者や障
の関係者が「顔の見える関係」 害者を含め誰もが支え、支え
をつくり、連携しやすくする られる地域を目指す。愛東地
ことだ。最近、みどりや認知 域ならではの地域包括ケアに
症への対応にも議論が及ぶ。 したい」と前を見据える。

一方で世話人代表の医師小 地域包括ケアで、厚生労働
 度つくり、拠点やサービスの
整備などで責任を果たし、地
域の専門家や住民と一緒に進
めなければならない」と指摘
している。

地域包括支援センター サービスの組み合わせなど医
地域包括ケアの各地域の 療、介護、福祉について要介護
拠点。介護保険の事業費で市町 者のケアをコーディネートす
村が設置し、主任ケアマネジャ 者のをはじめ、介護予防を含め
、保健師、社会福祉士を配置 地域住民を包括的に支援す
する。各種事業所の連携による る。